絵本の里

議会だより

けんぶち

令和２年度決算審査報告……２～３
決算審査特別委員会質疑……４～７
第４回臨時会・第５回臨時会・第６回臨時会・第４回定例会……８～９
新議会スタート……10～11
一般質問に６氏が登壇……12～17
みんなの声がまちづくり……18

No.137
2022年３月発行
（令和４年）
発行：剣淵町議会
編集：議会広報特別委員会
〒098-0392 剣淵町仲町37番1号
☎0165－26－9020（直通）
https://www.town.kembuchi.hokkaido.jp

令和2年度　決算審査報告

令和2年度　決算審査特別委員会委員長報告書

委員長　酒井　修

令和2年度決算審査特別委員会は、一般会計並びに6特別会計の歳入歳出決算について慎重に審議した結果、委員全員の賛成をもって認定すべきものと決定した。6000万円を基金に積立て、翌年度への繰越金として5444万円余りの財源を確保したことは、コロナ禍において健全財政を維持するうえで大変貴重な財源であり評価するものである。

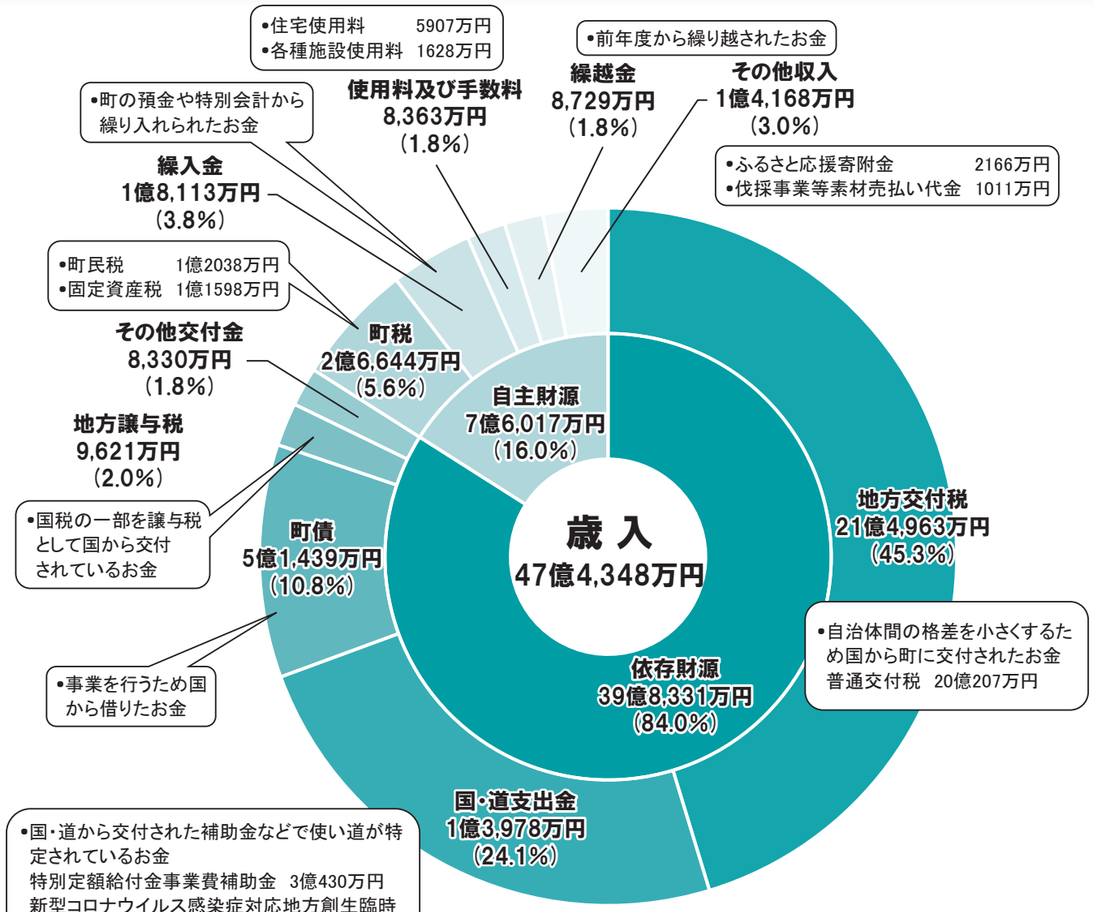
一方、地方債の年度末残高は一般会計と特別会計を合わせ、44億9790万円余りと前年度より1億1千万円ほど増加し、今後の財政運営に懸念を残すこととなった。前例踏襲になることなく諸事業の見直しと経常経費の抑制に努め、適正な財政運営を望むところである。

令和2年度は、人口が3千人を切ってしまい、早急な対策が必要である。最大の要因は住むところがない住宅・宅地問題にあり、地方債に依存する公営住宅頼みではなく、子育て世代を受け入れできる幅広い対策、構想が求められている。

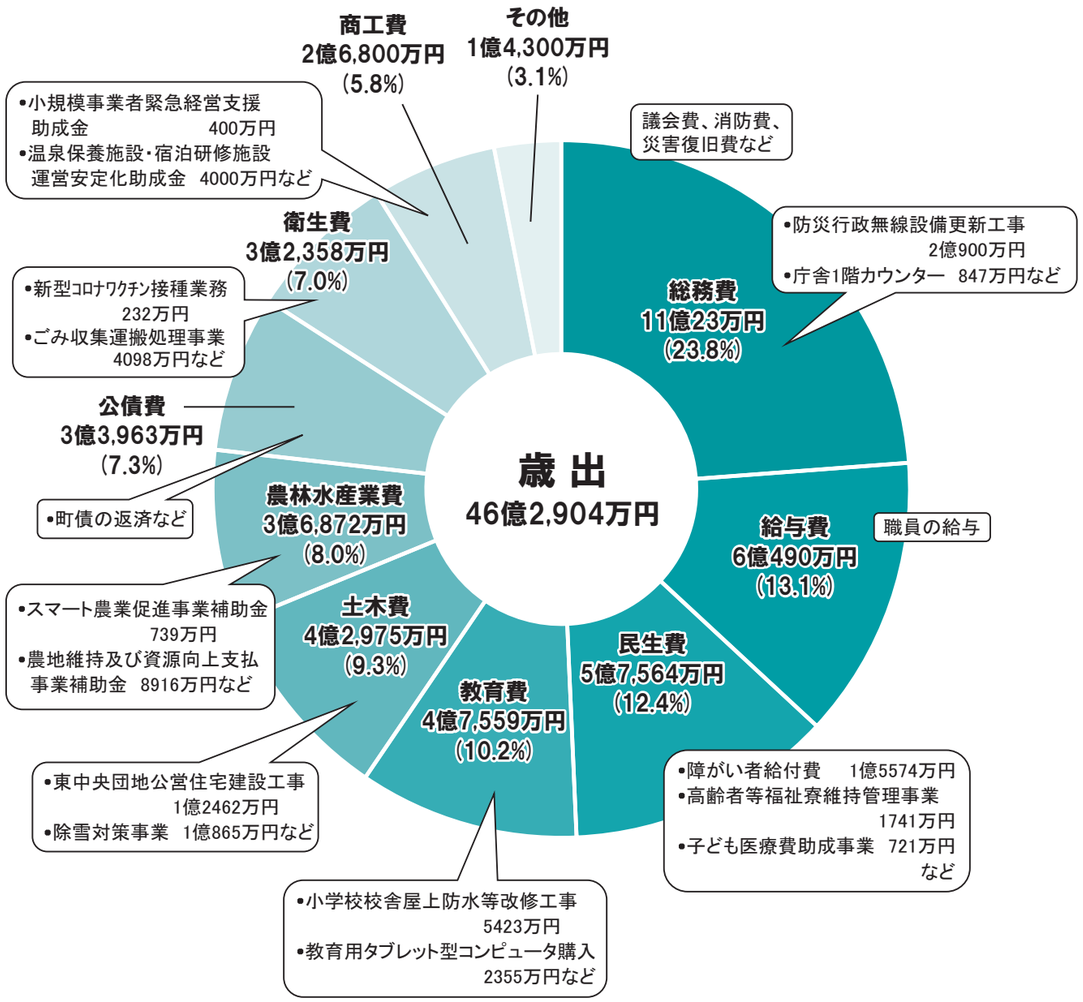
新型コロナウイルス感染症対策では、様々なイベント等が中止を余儀なくされ、コロナ対応臨時交付金により商工業者への各種支援金、スマート農業に対する支援等が行われたが、今後、国の財政はさらに悪化し、地方交付税の減額が想定されるため厳しい対応が必要と考える。

近年、各種委託料が増加し、町の財政を圧迫している状況にある。状況を精査し、見直せるところは見直し、自分たちでやるぐらいの気概を持って経費削減に取り組んでいただきたい。

最後に、通常業務に加え、思いもよらないコロナ対策業務に対応した職員の皆さんに感謝を申し上げ、委員長報告とします。



新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金 2億1,497万円を活用



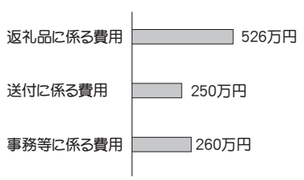
		歳　入	歳　出
一般会計		47億4,348万円	46億2,904万円
特別会計	国民健康保険事業	5億5,904万円	5億5,479万円
	国民健康保険剣淵町立診療所	1億152万円	9,145万円
	後期高齢者医療	6,529万円	6,285万円
	介護保険事業	4億7,613万円	4億5,567万円
	簡易水道事業	1億1,006万円	1億728万円
	下水道事業	2億3,790万円	2億3,446万円

令和2年度ふるさと納税

件数…1,214件
総額…2,166万円

ふるさと納税にかかる経費

1,036万円



令和2年度

決算審査特別委員会質疑

決算審査特別委員会で出された歳入・歳出についての主な質疑の概要を掲載します。

歳入

町税

高橋（毅）委員
滞納件数が減るなか、対象者は固定化しているのか、また、その場合の対処方法は。

真嶋住民課長
滞納者については固定化する傾向にある。町税だけでなく、水道料などを滞納している方もいる。固定資産税などは相続の関係で多くが町外の方であり、対応が難しい。対象者との電話などを通じて理解をいただき、分納などの提案をしながら、納めていただくよう努めたい。

保育所負担金

岡委員
一時保育の現状と課題は。

真嶋住民課長
近年、利用者が増加している。課題としては希望者1人に対し1人付くとなると保育者が足りないところと思われる。

岡委員
料金が高いとの声があることや、保育士の確保が難しいなかで、今後、一時保育の体制を考えていく必要があるのではないか。

真嶋住民課長
働きたいという家庭も多くなってきていると思う。料金設定は高くないと感じているが、近隣施設の保育状況を確認、調査したい。

福寿寮

高橋（毅）委員
福寿寮の空きはどれくらいか。

尾門健康福祉課長
10月初旬まで7名の方が入所されており空きは3室。10月中旬に1名退所され今現在6名が利用されている。

住宅使用料

大澤委員
滞納繰越分99万円、収入未済額77万円をどう捉えているのか。

杉村建設課長
滞納者は6名。個別に対応している。前年度に比べ、一括納入の方もいて、大幅に減額となった。今後も生活状況など相談しながら徴収に努めたい。

町営バス

岡委員
利用者が1千人ほど減っている。令和元年にも前年から1800人ほども減っている。こうした現状をどう捉えているか。

近隣では修理・維持管理費を考慮してのことだと思うが中型バスとなってきている。将来的にはバスの大きさも考えていくべきでは。

精進総務課長
小中学生の利用が大半を占めることから、大人の利用は1日に数人の状況。通学時間帯を考慮すると現状の3路線維持となる。いずれ10人乗り程度の車両を考えていきたい。

歳出

公共施設等個別施設計画

岡委員
計画を策定するなかで、更新や利用状況によっては用途廃止等もあり得ると捉えるが、計画を受けどう考えるのか。

渡邉総務課係長
施設計画については、42施設82棟を対象に今後の長寿命化・統合等を考えたもの。現有施設の延べ面積10％から15％程度減少させないと維持費のこともあり、いずれ歳入歳出の均衡がとれなくなるとの見込みによる。統合や廃止、売却なども考えていかなければならない。

旧東剣淵小学校体育館

防災行政無線

生出委員
設置状況についてどのようになっているか。

長谷川総務課係長
購入台数は1440台、うち10台が目の見えない方専用の受信機になる。1350台配布しており、

個人番号カード

1戸に1台が原則だが、自宅と店舗が別の場合など一定の理由がある場合は2台の設置を認めている。

高橋（毅）委員

マイナンバーカードの発行状況と今後の使い方の発展性は。

渡邉総務課係長

10月10日現在、９４４名。申請率31・９％。今後保険証の機能も加わるなどの恩恵が得られるようになる。さらには行政手続きなどの電子化も進み、利便性が高まるものと捉えている。広報に力を注いでしっかり対応していく。

卯城委員

マイナンバーカードを児童のいる世帯主が取得すると児童手当の給付が迅速になるとあったが。

佐々木住民課主査

カードがあれば自宅から児童手当の申請をすることができる。

精進総務課長

カードの活用範囲は広がり、国も強力に推奨する方針にある。ただ、カードを読み取る機器の環境を家庭で整えることが必要になる。

住宅新築・改修促進事業

岡委員

新築改修事業を進めるなかで、町内業者の割合が低いと思うがどう捉えているか。

鴻野総務課係長

町内業者では新築を建てることが難しく課題。全体の80％以上を改修が占めている。町内業者の割合は50％未満だが、恩恵は受けているものと考えている。

岡委員

現状１００万円以上を対象としている改修工事の対象額を50万円以上とすることはできないか。

鴻野総務課係長

助成を50万円以上とすると改修件数は増えると予想され、事業費の捻出が課題となる。

民生委員児童委員

生出委員

運営補助金として80万円。13名の民生委員に支給されるものだが、少子高齢化が進むなか、民生委員の負担が多くなってきている。年間にすると1人当たり6万円程度。活動に対しての報酬としては少ないのではないか。見直す必要があると思うが。

尾門健康福祉課長

民生委員の活動費については、一昨年より地区の人口割に応じて金額を算定している。現在は様々な情報が有効に活用される状況が増え、民生委員の活動役割が重要になってきているとは実感するが、課内での活動費の増額見直しには至っていない。

除雪サービス

高橋（毅）委員

除雪サービス事業について昨年のように大雪の場合、利用が増えるとは思うが、高齢化がより進むと急増する可能性がある。その場合の対応について。

板東健康福祉課長補佐

除雪サービスについては年々増加する傾向にある。除雪サービスは高齢者に対するものとの原則から、新しい公営住宅の除雪については、それぞれシーズン契約を委託先と結び、入居者が分担して費用の負担する形が望ましい。

高齢者事業団による除雪

老人保護措置

大澤委員

老人保護措置費が増える傾向にあると思うが、どういう方が該当するのか。

高橋健康福祉課主幹

主として虐待が見受けられる、家屋の状態が悪くて居住に適さない、身寄りがなく、出ても住むところがない等の場合に、町で施設への入所支援をしている。

高齢者バス運賃助成

大澤委員
バス運賃助成について利用されない理由は。

板東健康福祉課長補佐
　バス運賃助成事業については道北バス利用者への助成となる。道北バスの営業路線については町営バスの運行はできないことから、道北バスの路線に面する方への運賃助成ということになる。利用がない状況はじんじん号などの利用でカバーされているものと捉えており、廃止を予定している。

担い手対策推進事業

高橋（毅）委員
担い手対策推進事業の実績と課題と今後の進め方は。

宍戸農林課長
　農商工業就業奨励金についてはUターン比率が非常に高く、親元で就農して農業を承継していける環境が整っていると感じている。新規就農者への支援については事例もないことから具体的な施策と検討が遅れている。課題としては農地取得のハードルの高さ、農業スキルを身につける農業研修制度が物足りないといった点が挙げられる。コロナ禍でニーズが生まれる可能性もあることから今後の課題としたい。

農業トライアルツアーの農作業体験

大澤委員
農家戸数の減少が進み、農地の大規模化も難しい。今は第三者の就農需要がないかもしれないが、10年以内には深刻な状況になる可能性がありその時のために備える必要がある。新規就農希望者がパソコンで検索すると、こういう補助がある、一定の年数を就農すれば自営を目指せるといった形を、JAと連携して組み立てていくと同時にPRすることが大切ではないか。

宍戸農林課長
　新規就農者に関しての支援プログラムや方策はないのが現状。現段階ではどのような支援ができるかを課内で検討しているところ。PRも大切だが、まずは受け入れのための方策をまとめなければならない。

キヌア

大澤委員
キヌアの栽培研究事業については支援のかいもあり、80haほどの作付面積となったが、今後は安定供給と国内でのシェア争いが始まる。広告宣伝などの費用支援が必要と思うがその考えは。

宍戸農林課長
　キヌアについては一般的な穀物とは言えず、町民はじめ、全道全国に発信してどう知名度を上げていくかが課題。キヌアへの支援は継続していきたいと考えている。

水田農業ビジョン

岡委員
時代が変わっていくなかで今後の剣淵農業のあり方として、大規模農家の支援としてはスマート農業があるが、中小規模の農業者への5年～10年先を見据えた支援は。

櫻井農林課主幹
　作物で単価を変えるなど行ってきているが、今の制度のなかでは充分なことがやりきれないので中小農家にどのような支援ができるのか意識しながら進めていきたい。

スマート農業

卯城委員
具体的にどのような機器等に補助しているのか。

宍戸農林課長
　内訳はトラクターなどの自動操舵システム、ガイダンスという燃費節約支援、ドローン購入、GPS機能付防除機、資格取得支援等。スマート農業といっても多岐にわたっており、農業者の求める要望に沿う形で支援していく。

農業用ドローン

移動販売車

佐藤委員
購入した移動販売車の使用状況はどうか。

山下町づくり観光課長　――――
　今年の3月から町内で販売している。9月までで販売回数延べ45回、574名が購入している。

移動販売車

樋門樋管操作

高橋（毅）委員　――――
　樋門操作について、時には大雨や夜間作業となることも考えられる。安全面からも、単独の作業を避ける体制づくりが必要と思うが。
小川原建設課係長　――――
　樋門操作については道からの委託。あくまで道の判断基準に従うこととなることから、2名体制は難しい。天候状況や時間帯を考え、警戒のＦＡＸは送信している。

学習生活支援職員

岡委員　――――
　小学校に3人、中学校に1人配置しているが、勤務の現状は。
半田教育長　――――
　低学年の発達が遅かったり困り感を抱えている子供を通常学級の中で複数指導するところから始まり、近年は個別授業や教科によって支援学級と原学級を行ったりきたりする通級指導を取り入れ、低学年中心の生活支援ばかりではなくなっている。中学校においても教科の習熟度指導、学習支援などを行ってもらっている。

各種検定補助金

卯城委員　――――
　生徒の学習意欲が上がり、学力の向上につながっていると感じている。小学校から英語の取組みも検討したいとしているが、受検するにあたって、教師の負担が増えると思われる。負担のカバーと小中学校の連携が必要と思うが。
半田教育長　――――
　小学校の低学年のうちから親しんで英会話ができることを目標に、取り組むことを小学校に提案したい。ただ行おうとすると事前の指導等が必要となることから、慎重に検討してもらうことになる。そうしたなかで小中学校の連携についても課題となってくる。

奨学金

卯城議員　――――
　奨学金の返還支援を実施している道内47市町村のなかに剣淵町も入っていたが、どのような返還支援を行っているか。
萩尾教育課長　――――
　無利息で返還いただく内容となる。他自治体では地元に帰ってきた場合に、何年か勤めたり居住したりすることによって返還部分を免除している自治体もある。現在返還をされている方は6名である。

りんどう交流館

生出委員　――――
　町内で主に交流の場として利用されているが、常駐でないなかで73万円もかけて委託しなければならないのか。
西岡教育課長補佐　――――
　委託料の内訳は清掃、周辺の除草、冬季の除雪等。コロナ禍により利用が減っているが、平常時に戻れば利用の回復が見込まれる。何ぶんにも古い施設のため、こまめな管理が必要と考えている。
生出委員　――――
　委託の形を、もう少し簡易にしては。
西岡教育課長補佐　――――
　需要に応じてとも考えられるが、厳しいと感じる。金額については回数を減らすなど、課題としたい。

りんどう交流館

さぬき市交流

大澤議員　――――
　さぬき市交流事業が令和2、3年度中止というなかで、対面式の交流が難しい部分があると思うが、タブレットの設置が進みオンライン授業交流などで交流を途絶えさせることなく継続できるのではないか。
佐藤教育課長補佐　――――
　さぬき市教育委員会との協議のなかでは、交流は継続してやっていくべきと認識しており、ズームを使った授業交流ができないかなど、投げかけを行っている。ホームステイは手上げ方式や、レークサイド桜岡を活用して交流を進めていきたい。

第4回臨時会 10/19~25

会期は7日間。補正予算と専決処分がそれぞれ2件のほか、令和2年度各会計決算について審議を行い、すべて可決しました。

補正予算

プレミアム付商品券事業補助金

●一般会計に1439万円、簡易水道事業特別会計に264万円を追加しました。

主な内容は、一般会計ではプレミアム商品券事業補助金500万円など、簡易水道事業特別会計では消費税中間納付額不足分です。

専決処分

簡易水道事業特別会計へ繰出

●簡易水道事業特別会計において令和2年度分の消費税納付のため、一般会計では、202万円を繰出す補正予算、簡易水道事業特別会計では不足額383万円を追加する補正予算の専決処分です。

令和2年度各会計決算は特別委員会に付託し慎重に審議しました。

主な内容は4~7ページに記載しています。

賛成討論

岡康照議員

新型コロナウイルス感染症という未経験の試練のなか、事業の見直し、経常経費の削減などを行ったことに加え、国の臨時交付金を活用して事業を計画し、感染対策、高齢者や弱者への支援、商工業者への支援、特に飲食・観光事業者への迅速な支援が行われたことは評価できます。

学習環境の向上や、中小農家と一体となった取組み、多様な視点での見守り体制などに期待します。

今後の持続可能なまちのためには、新しい生活様式を取り入れ、町民のニーズと事業の効果を適切に見極めた上での重点化、国の事業の効果的な活用が重要視されます。町行政の可視化により民間や町民との連携、協働が可能な範囲を明確にしつつ、諸活動に取組んでいくことを期待し賛成討論とします。

第5回臨時会 11/17

会期は1日間。2件の補正予算について審議を行い可決しました。

補正予算

庁舎前駐車場整備ほか

●一般会計に468万円、簡易水道事業特別会計に77万円を追加しました。

主な内容は、一般会計では、庁舎前駐車場整備216万円など、簡易水道事業特別会計では水道管布設工事77万円です。

整備された駐車場

第6回臨時会 11/30

会期は1日間。2件の補正予算と財産取得について審議を行い可決しました。

補正予算

子育て世帯への臨時特別給付金ほか

●一般会計に2821万円、国民健康保険剣淵町立診療所特別会計に、82万円を追加しました。

主な内容は、一般会計では子供1人当たり5万円の臨時特別給付金事業で1794万円、コロナウイルスワクチン接種3回目のシステム改修に68万円。昨年に引き続きコロナの影響が大きく公共交通の維持が困難な状況の道北バスに対する助成823万円などです。国民健康保険剣淵町立診療所特別会計では検査データ管理システム購入費74万円などです。

質疑

髙橋毅議員

新型コロナウイルス3回目接種はどういう形になるのか。

尾門健康福祉課長

3回目接種の対象となる方には、2回目接種から8か月経過した方で18歳以上が対象となり、接種券配布後に診療所に電話予約する方法で検討しています。

質疑

生出孝男議員
　子育て世帯への臨時交付金をクーポンでなく全額現金とする考えは。
中村副町長
　年内に現金5万円を配布し、残りについては現金給付も可能なので、町民の意見を聞きながら進めていく。

財産の取得

2分別塵芥車の契約

●財産の内容…2分別塵芥収集車
●契約の相手方…北海道いすゞ自動車（株）旭川支店
●契約金額…2034万円

第7回臨時会 12/15

改選後初の臨時会で会期は1日間。議長・副議長の選挙、常任委員、議会運営委員の選任、士別地方消防事務組合議会議員の選挙、監査委員の選任について審議を行い可決しました。

議長・副議長の選挙

議長に高橋毅、副議長に大澤秀明が当選

総務厚生常任委員会
◎酒井修、○村上知世
産建文教常任委員会
◎岡康照、○竹内佳明
議会運営委員会
◎卯城規伊、○岡康照
士別地方消防事務組合議会議員に髙橋毅、大澤秀明、酒井修
監査委員に早乙女晃隆を選任。
（◎委員長、○副委員長）

選挙結果

●議　長　髙橋毅6票、卯城規伊1票
　無効票　2票
副議長　大澤秀明8票、岡康照1票

第4回定例会 12/23~24

改選後初の定例会で会期は2日間。一般質問には6名が登壇。議案は補正予算3件、人事案件が1件あり、慎重に審議を行い全て可決しました。

補正予算

東中央団地公営住宅建設工事ほか

●一般会計に1億8760万円、国民健康保険特別会計に50万円、国民健康保険剣淵町立診療所特別会計に96万円を追加しました。
　主な内容は、一般会計で東中央団地公営住宅建設工事1億5106万円など、国民健康保険会計、療養費50万円、国民健康保険剣淵町立診療所会計ではパートタイム職員等の報酬96万円です。

質疑

竹内議員
　3回目のワクチンをモデルナ社製か、ファイザー社製に選択可能か。
尾門健康福祉課長
　今回、国から配布されたのはファイザー社製なので選択は不可能です。

人事案件

副町長の選任に同意

●副町長の選任

中村　正人氏（再任）
住所　緑町6番5号
任期　令和3年12月28日～令和7年12月27日

発議

広報委員の選任

岡康照委員長、酒井修副委員長、卯城規伊委員、竹内佳明委員、村上知世委員

要望意見書

3件を採択しました

●北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める要望意見書
　要請団体…農民運動北海道連合会
●地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める要望意見書
　要請団体…北海道町村議会議長会
●燃油等の価格高騰対策、国の農業予算や運用変更に関する要望意見書
　要請団体…剣淵農民連盟

新議会スタート!!

総務厚生常任委員長

酒 井　　修（62） 2期目

再びお世話になります。
４年前と同じですが議員定数の削減を含む議会改革を今度こそ進めたいと思います。

議会運営委員長

卯城　規伊（68） 5期目

新年を迎えてもコロナへの心配は尽きない。猶のこと、身近に希望を見出し、日常を楽しみたいものです。

議長

高 橋　　毅（75） 6期目

コロナ禍や水活交付金の見直しなど町の難題も町民の英知と工夫により克服可能と思い議会も結束して頑張ります。

副議長

大澤　秀明（35） 3期目

重責を担うことになりましたが、引き続き新しい取組みにアンテナを張り面白い町づくりを目指していきたいです。

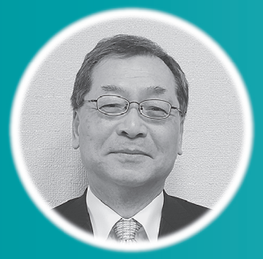
産建文教常任委員長

岡　　康 照（48） 2期目

次の世代に誇りをもって引き継いでもらえるまち、子どもから高齢者まで笑顔あふれるまちのために頑張ります。

佐藤　宏和（60） 1期目

農業振興と観光資源を活かし、安心して暮らせる町づくりを目指し、一人ひとりの声を力に変えて頑張ります。



竹内　佳明（64） 1期目

一刻も早くコロナが収束することを願い。”感謝・感激・感動”を共有できるまちづくりに努めます。

総務厚生常任委員会

委員長	酒井	修
副委員長	村上	知世
委員	早乙女	晃隆
〃	卯城	規伊
〃	大澤	秀明

産建文教常任委員会

委員長	岡	康照
副委員長	竹内	佳明
委員	佐藤	宏和
〃	大澤	秀明
〃	髙橋	毅

議会運営委員会

委員長	卯城	規伊
副委員長	岡	康照
委員	酒井	修
〃	竹内	佳明
〃	大澤	秀明

村上　知世（52） 1期目

日々願う、町の繁栄を見据え、ブレずに、恐れずに前へと。４年後、振り返って道ができていることを信じて。

監査委員

早乙女晃隆（50） 1期目

住み良い町、安心して暮らせる町を維持する為、町民の声に対し町としてやるべき事を考え新提案します。

一般質問

支えを必要とする人が増加するなか、支える人をどのように確保し育成していくのか

岡　康照 議員

町長　人とのつながりで地域の課題を解決していくため
ボランティアの活動を支援していきたい

岡　康照　議員

人口減少、少子高齢化は大きな課題であるが、今後、日常生活に支えを必要とする人が増加する一方、支える人、将来の町を担っていく人が減少する傾向がより強くなると予想されている。町を支える人をどのように確保し育成していくのか。人口をどのように維持していくのか。

早坂　町長

支える人という視点から第６期総合計画のなかで、まちづくりの課題の一つに、人とのつながりで地域の課題を解決していく必要性を挙げている。本町は、住民主体の活動を地域のボランティアを中心に推進してきたが、各団体が後継者不足を課題としている。その要因として、周知不足のほか夫婦共働き世帯が一般的となっていることや、年金支給年齢の引き上げにより定年後も就労する必要があり、ボランティアをできる人材が限られていることが挙げられる。サロン活動の担い手からも、後継者がいないという声が届いていることから、既存のボランティア研修会において人材育成に特化した内容で開催と支援を検討していきたい。

ボランティアを担う人材は、一朝一夕で育成できるものではないため、社会福祉協議会とともに支援し、活動を推進していきたい。

自治体の運営や地域のコミュニティ形成上、一定の機能を維持するには、最低限、人口３千人は必要であり、移住定住者を増やす、定住人口を増やす観点から住まいの強化のほか、保育・教育、雇用など複合的総合的なまちづくりを進めることで課題解決につながるものと判断している。

岡　議員

労働力の確保と生産年齢人口の増加が重要な課題だと思っており、移住・定住で外からの力を得ながら、併せて地域のなかで活躍できる環境をつくりながら進めていく必要があると思うがどうか。

早坂　町長

移住・定住を進めるなかでは、剣淵が住みやすい、子育てもしたい、そういう家族が家を建てて、住んでいる現状があり、そういう人たちは友達も増えて、地域の活動などにいろんな形で参加してもらえることも考えられる。

人材の確保の面でも、地域おこし協力隊は町をよくしていこうという考えもあり、この剣淵の中、プラスよそから来てくれた人たちが、剣淵を刺激することから人材として大切と思っている。

岡　議員

移住・定住の観点からいけば、若い世代、子育て世代に剣淵町に来てもらいたいと思っていて、併せて剣淵町にいる生産年齢世代、シニアになっても元気な方々にも活躍していただきたい。そういったなかで、子育てをしながら、また介護をしながらでも、仕事と生活の両立をしながら多様で柔軟な働き方ができるようにしていくことが、移住してくる人たちへの施策にもつながっていく。

例えば、短時間の勤務を可能にする、低年齢の保育希望者へは良好な保育環境を提供する、働く女性を応援するなど、新しい支援にも踏み込んでいただきたいが。

早坂　町長

ニーズがあるのであれば、可能な限り進めていければと考えている。

また、そういう環境になってくることによって、ほかにもいい影響が出てくるのでないかと思う。

一般質問

竹内佳明 議員

小中学校連携教育の拠点となる施設整備は

町長 小学校に中学校部分を増築する一体化改修を前提として令和７年度に実施設計を考えている

竹内佳明 議員

教育委員会では、今後の児童・生徒の減少や施設の耐久性を踏まえ、平成30年に「学校施設長寿命化計画」、平成31年に「長寿命化改修基本計画」を策定し公表している。そのなかで目指すべき姿の学校実現に向け「全面的な現状改善が不可欠、町財政を考慮し小学校校舎を改修増築して適正規模の小中一体型学校を実現できる可能性が高い。」との主旨内容だが、次の点について伺いたい。

総合教育会議のなかで町長はどのような判断をされたのか。

早坂 町長

小中学校一体化による新築は、整備水準を満たした特色ある整備を実現でき、維持管理負担の軽減も図れる点で魅力だが、事業費が大きくなる傾向がある。そこで、比較的改修が容易な小学校を改修し、中学校部分を増築する小中学校の一体化改修を前提として「長寿命化改修基本計画」を策定した。総合計画の中で、一定の年限に掲載する必要があると発言した結果が令和７年である。

竹内 議員

小中学校に単年度で多額の修繕をかけるのであれば着手していく方が得策では。

早坂 町長

最低限の修繕は単費であってもやっていくというような観点を持って取組んでいる。

竹内 議員

現小学校を改修しての小中校一体型校舎が最有力としているが、仮校舎や小学校の敷地が狭くグラウンドを十分に確保できるのか。新築の場合は、自由設計で使い勝手の良い効率的な間取りができるかと思うが、実施設計に向けて町民の意見を聞く考えは。

早坂 町長

現時点での観点は教育委員会が策定した計画を基本とし、時間の経過とともに必要があればやらなければならないこともある。

竹内 議員

教育委員会の改修基本計画ではいくつかの案のなかから、一番有力ということで記載されているがそのなかには、新築も載っている。新聞報道で千島海溝地震の被害想定が公表されていたように今後どのような災害があるか想定できないなかで避難所設備を有する防災機能を盛り込む新築の考えは。

早坂 町長

最低限の耐震化工事は終了している。防災センターみたいな新築の機能を加味するのは難しい。実施設計する段階で必要があれば意見を聴くことは可能かと思う。

竹内 議員

教育委員会の改修基本計画を尊重することでよろしいと思うが、実施設計に際しては町民の意見も取り入れるような形で進めていただきたい。令和７年度の実施設計という具体的な目標年度があるので、教育施設整備基金的なものを創設する考えはあるか。

早坂 町長

積立をして備えることは厳しい状況かと思う。町の財政が借入を起こすまでどこまでの力があるか今後検討していく。

竹内 議員

町の財政を考慮されるのであれば当初から教育施設のための基金を設けて余剰金も含めて充てていく考えは。

早坂 町長

財政のなかでどのようなことができるかは考えていきたい。定期的に積立ができるかどうかは約束することができない。

一般質問

水田活用交付金の見直しについての対応は

佐藤宏和 議員

町長　政策の撤回に向けて運動していく

佐藤宏和　議員

政府は水田活用直接支払交付金の見直しのなか、今後5年間に一度も水張りが行われない水田については、交付金の対象から除外する方針が出された。見直しが実施されれば、剣淵町は80％近い転作率のなかで農業収入が約10億円減少すると見込まれ、農家の所得や農地の下落などその影響があらゆる方面に波及し地域経済に大きな打撃を受けることになる。この問題に対しどのような対応を考えていくのか、農業を今後どのように守り振興を図っていくか伺う。

早坂　町長

交付金要件の見直しに関し、農業関係者が驚愕し落胆したのは言うまでもありません。

こうした状況を受け、12月13日に急遽上京し農水省に撤回の要望書を渡し、道内選出の与党議員にも支援のお願いをしてきた。町としては断固反対し関係団体と緊密に連携し、あらゆるチャンネルを駆使し、政策の撤回に向けて運動をしていく。

現段階では見直しの大枠が示されたのみで、農家の皆様は不安な日々を過ごしておられるが、新しい情報が得られれば逐次お知らせしたい。

剣淵の農業は幾度となく政策に翻弄され、その度にたゆまない努力を続け基幹産業である農業と地域を守り抜いてきた。時代の変化とともに変わっていく課題の解決について、農業者と共に考え国や道に訴えかけ、地域に寄り添った農業の振興を図っていく考えである。

佐藤　議員

剣淵町は基盤整備が終わって減反政策が始まり、一度も米を作っていない水田が相当ある。米余りのなか、今さら水田を作れと言うのは無理な話であり、国は諦めなさいと言っているような気がする。

農業を続けられないとか、後継者に諦めさせるとか不安の声が数多く聞こえてくる。この地域は十勝などとは違い気象や土壌的に良いほうではなく、努力しても追いつかない部分がある。そこを理解してもらい一緒になって、オール北海道で要請していただきたい。

早坂　町長

本当にそのとおりで赤潮も漁業の大きな問題だが、農業も同じで米作・畑作・畜産の問題など、今まで協力して北海道農業として戦ってきたわけであり、この問題についても鈴木知事にも一緒になって声をあげてもらう運動を展開していかなければならない。

佐藤　議員

これから農業を頑張る若者にどういう方向性を見出していくのか。新しい取組み、新しい作物をやっていかなければならないときに町の方でも何らかの支援をしてもらいたいが。

早坂　町長

農業の支援といっても一つではないので何かいい手立てがあれば進めていきたいし、町が考える活性化策と、農家の皆さんが考える活性化策とできるだけ近づけられるような形も考えていきたい。

水田活用の直接支払交付金の見直し等の説明会

一般質問

酒井　修 議員

3000人を切った町の人口対策についてどう対応していくか

町長　住宅に関しては、町独自の建物の整備、町有地を活用した分譲を考えている

酒井　修 議員

町長が選挙期間中に、人口3千人への回復を目指すと言っていたが、どのような具体的対策を考えているのか。

早坂 町長

定住人口につなげる施策と今年の夏からレークサイド桜岡の客室1室を改装し、光回線の利用、都市部住民のワーケーションへの取組も進めていく。

住宅に関しては、町独自の建物の整備、町有地を活用した分譲を考えている。

酒井 議員

町独自の建物の整備というが、1棟4戸として1億円以上の経費はかかると思う。費用対効果を考えると、民間アパートの建築に対する助成で整備を行えば5分の1以下の経費で済むのではないか。これについては、たくさんの議員が要望している。これに関して、町長の答弁は一貫して個人資産に対する助成は行いたくないというが、個人資産に対する助成については、様々な制度のなかで行われている現状がある。これについて町長の考えを伺いたい。

早坂 町長

特にアパート経営というのは、実際には入居者からの収入があるわけだから、資金の調達も容易であるという部分が判断できる。それを考えれば、他の例えば農機具を買うとか、あるいは商工振興の部分でも、こちらが支援していく部分とはちょっとニュアンスが違うのではないかと考えている。

酒井 議員

この民間アパートの建築に対する助成だけに難色を示すというのは、視点をずらした見方をすれば、町長個人の事業に影響が出てくるから、この助成事業を実行しようとしないのではないか。そんな気がしてならない。誤解をされないように、根拠なりを町長の方できっちりと固めないと引っ込むことができない案件だと考える。

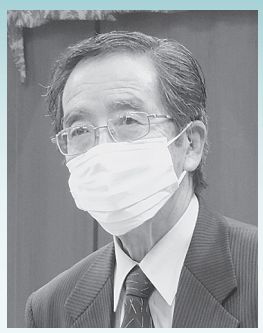
前回の質問に対して「今後、町有地の活用を考えていきたい」というような答弁があったが、今思いつく場所としては、緑町の山田菓子店の隣で夏は駐車場になって、冬場は雪捨て場になっている町有地がある。道道側ではなく、南側の土地は、大きな面積であるから、2、3軒分の宅地は供給できるのではないか。街なかに住宅地として供給できる土地が少ない剣淵町にとっては、あの土地は大事な土地だと思うし、街なかの一等地だと考える。早急に払い下げを行ってもらいたい。その部分を雪捨て場だからそれはやれないということでは、もったいなさすぎるのではないか。

早坂 町長

緑町の件ですが、一応、夏は駐車場で冬は雪の堆積場というような状況になっており、大通り会が積極的に使われて、雪の処理をしている。その点を考えると、政策的にやるというのは、ちょっと難があると感じる。

けんぷち商店街お客様駐車場

2期8年を振り返り、町政執行をどう評価されるのか



卯城規伊 議員

町長 いかに住民の声をまとめ、政策として形作っていくかが試されている

卯城規伊 議員

2期8年を振り返り、その間の町政執行をどう自己評価されるのか、さらに取り組んでみたものの十分な成果が得られなかった事業や今後に向け大胆に取り組む必要があると考える事業について伺う。

早坂 町長

基幹産業が農業であることから、6次産業化の必要性や価値観を創造することが大切と考え、農産物のブランド化を進めてきた。結果、農産物の品質向上や各種加工品の誕生につながったと捉えている。従来からの土づくりによる手ごたえも感じられ、暗渠排水等も生産性向上に結び付いた。海外からの観光客の誘致に向け動向を探り、タイ・台湾・サハリン・韓国などに目を向けPRに努めてきた。台湾やタイの作家による剣淵を紹介する絵本を作成して配布する試みは注目を集める結果となった。町内での異業種参入や起業化支援、新規就業奨励金事業などは後継者・就業者獲得に少なくない効果を確認している。福祉医療分野においては保健師増強による健康予防に力を入れた結果、特定検診2年連続の全道1位を確保することができた。医療連携協定締結により理学療法士の常駐派遣も実現した。レークサイド桜岡は6月末に飲食部門を廃止、テナントに切り替え宿泊に特化した結果、経営改善の効果が表れつつある。

十分な成果が得られなかった事業としてはロシアサハリン州アニワ市との姉妹都市提携、道と連携しての農産物の販路開拓の可能性を探ったが文化の違いなどから断念解消に至った。

今後に向け重点を置いて進めていく方向性としては農業と商工業の経済の確立と待ったなしの高齢化への対策、IT化に向けた支援等が考えられる。

卯城 議員

選挙公報のなかのスクラップ&ビルド、具体的に今期縮小若しくは廃止する事業、新たに取り組まれる事業について伺いたい。

早坂 町長

このフレーズについては「変える」を意識して使用した。事務事業の見直し等については、事務改善検討委員会が中心となって令和元年度から各課からの提案を受けて改善に努めてきた。施設の使用料、証明書の発行手数料の改定、事務分掌の改正、補助金等のガイドラインの策定、福祉・教育等の一部を除いた交付額の切り下げ、公文書管理に関する公用文の作成基準や書式の改善などを実施してきたところ。令和4年度以降も引き続き見直しを進めていく。

卯城 議員

組織のなかでの最適、社会のなかでの全体最適、最適な形を自分たちで見つける時代に変わってきたように思う。今の時代にそぐわない事業もあると思う。削る部分、どう町民の理解を得て進めていくかが肝心なことと思うが。

早坂 町長

縮小ということでは高台パークゴルフ場、造成して当時は評判も良かったけれども、利用者が減り続けたことから閉鎖に至ったことが思い起こされる。

今はいかに住民の声をまとめ、政策として形作っていくかが試されていると思う。そのようなことから、進め方としては統廃合といったことについても、慎重に扱っていきたい。

常に原点に返る。あるいは常に足元を見ながら事業を選択し進めていきたいと考えている。

一般質問

村上知世 議員

空き家のリノベーションは

町長 リノベーションについては住宅新築・改修助成事業含め事業の精査をしていきたい

村上知世 議員

町長は人口3千人に戻すため、町営住宅建設や移住相談窓口の強化を考えられているが次の2点について伺う。

まず空き家のリノベーションについて、既存の住宅補修のため、町営住宅を一から建設するよりも、予算も時間的コストも抑えられ、家主には賃料が入る。町営住宅よりも街並みが多様化し、生活感が出て暖かみが感じられる。将来性を考えるとき、一番重要なのは町民の収入源確保になることだと思うが、リノベーションについての考えはどうか。

2点目に効果的かつ経済的に人口増加を進めるためには、移住定住を促進するシステムを作る必要があると考える。役場内で移住定住促進プロジェクトを組み、移住希望者の問い合わせや住宅貸し出し希望者の情報を取りまとめ、民間窓口で移住希望者や移住者からの定住に向けての様々な問題を聞き取り対応する、官民協働の移住しやすい町づくりをしてはどうか。

早坂 町長

空き家や空き地の紹介については所有者に登録を募り、利用希望者への紹介と相談を行っている。ニーズに対して登録物件が少ない・乏しい・釣り合っていない状況にあり、登録を募るためのチラシを投函したが、これに対しての問い合わせや反応はなかった。

リノベーション事業については既存事業の「住宅新築・改修助成事業」を含め、事業の精査をしていきたい。

移住定住促進プロジェクトについては、これまでの対策についての振り返りを行い、併せて提案の民間窓口の設置を含めて、研究課題としていきたい。町内に士別市のような受け皿となる民間の事業者があるか、無ければどのように作り上げていくのか、ここは熟慮しなければならない点と思う。

訪れて楽しい「絵本の里」のグランドデザインについて

村上 議員

30年以上、絵本の里として活動している剣淵町は「絵本の里」として知られているが訪れた人に「どこが絵本の町なの?」と言われることも多く、せっかく訪れてくれた人の期待にそえる街並みをデザインする必要があると思う。

絵本の里らしい魅力的な街並みを創ることで、経済効果や子育て世代の移住促進へつなげることもできると思う。そこでデザイナーに委託するなど、きっちりグランドデザインをしてはどうか。

早坂 町長

現在の街並みについては、平成9年度に多くのご意見を貰い、整備計画の策定を行い、その成果が十分に生かされていると考える。

ハード面では来訪者にとって視覚的にインパクトはあるが、積雪寒冷地であることから建物形状による表現やオブジェ的建造物の設置は難しい。

村上 議員

では、これから絵本の里らしく剣淵町を全体的にデザインしたりはしないということか。絵本の里のイメージができれば町民の気持ちもひとつになると思うが。

早坂 町長

来た方が何を求めているかという部分も調べてみる必要がある。そういう情報も教えていただいたら、街並み整備の会議をもう一回開いてみようかってことは全くゼロではないと感じている。

みんなの声がまちづくり

西町　安田悠耶（やすだ　ゆうや）さん・みなみさん

剣淵の良いところ、足りないところは？

北海道の田舎のなかでは比較的交通の便が良く、ＪＲも通っていて旭川空港も近く高速を使って札幌にも行きやすいです。
10代、20代では物足りないかもしれませんが、30代過ぎてからは、最低限の店舗もあり、子供を育てるにはいい環境だと思います。
剣淵で働く場所がなくても、住宅があれば近隣に通勤も可能と思います。

未来の剣淵はどんな町になっていたらいいと思いますか？

人口減少を止めるのは難しいと思いますが、3000人を維持して子供たちが多くいる町になってほしいと思います。

剣淵小学校児童会長　佐藤雄心（さとう　ゆうしん）くん

剣淵の良いところ、足りないところは？

挨拶が素敵なことと、春夏秋冬にちなんだイベントが多く、楽しみながらコミュニケーションをとることができていることが良いところです。
足りないと思っているところは、年々人口が減っていることです。この現象が続くと町がなくなるかもしれないので、町民たちが協力してプラスにしていけたらいいと思います。

未来の剣淵はどんな町になっていたらいいと思いますか？

人口が増えるために、絵本を使ったクイズや読み聞かせのイベントを増やしたり、お店のリフォームなどをして、町民達が安心安全に暮していけるまちになっていたらいいと思います。

編集後記

表紙の写真は、保育所でのそりすべりの様子です。とても寒い日でしたが、子ども達の楽しそうな声と笑顔が印象的でした。
改選後の新しい編集委員による初の議会だより137号をお届けします。
各委員が、情報公開と分かりやすさ見やすさなどを念頭において、編集作業に取り組みました。議会の様子が、この紙面を通じて町民の皆さまに伝わることを願っています。

広報委員長　岡　康照
副委員長　酒井　修
委員　卯城　規伊
竹内　佳明
村上　知世